

二年生の後期に留学していたので、何も分からない状態から始まりました。イメージも湧かないまま、どんなことをしたのか、どんなことをするのかを、友達から聞いて少し理解できた程度でした。

前期の日本語授業は、不安と緊張しかありませんでした。何も分からない状態ということもあり弱気でした。そして迎えた後期のYMCAでの教壇実習授業ですが、授業を行うための教案作成では、作り方が分からないので作成方法を学ぶところから始めました。モデル教案を見ると、本当に細かく書かれていて驚きました。一番苦戦したのは、時間配分です。この部分は何分間で終わるなど、想像ができなかったのが大変でした。漢字を担当した時は、授業時間が45分と決まっていたので、時間が余り、自分で活動を考えることが本当に大変で、前に進めませんでした。あまりに辛くて、投げ出したいくなりました他の実習生が時間が余っているのか足りないのか全然話し合わずに、一人で全部抱え込んでいたことが原因でした。連携をとりながら進めることが大切だと学びました。これはみんな分かるだろうと思っていた単語がまだ習っていないくて使えなくなってしまうことや、少し言い方を変えるだけでとても分かりやすくなることも学びました。中国人留学生はアドリブで使った言葉も理解してくれていましたが、初級だと全然理解できないということを実感しました。その言葉選びがとても難しかったです。

教材準備では、かなりの模造紙を使いました。文字の大きさも分からなかったのが、大きく字を書きました。学習者は大きい字の方が見えやすいので良いのですが、模造紙の量も多くなります。ホワイトボードに貼って外しての作業の際に、戸惑ってしまい苦戦しました。ふりがなをつけたり、色を変えたりと工夫が必要でした。磁力が弱いと授業中に模造紙がはがれてくるので、教材を作って終わりではなく、細かいところにも注意しなければいけないということも学びました。

マイクロ・ティーチングでは、教えることの難しさを実感しました。分かりやすく教えるということばかり考えていたので、ホワイトボードの使い方など立つ場所など考えていませんでした。緊張するとそこまで意識がいかないのが、とても苦戦しました。でも、私の言いたいことが伝わった時の喜びはとても大きかったです。

全体的に見ると、北九州YMCAでの教壇実習はとても楽しかったです。リハーサルをすると、訂正箇所が数多く指摘され、正しいイントネーションで日本語を話すこともできず、不安が大きかったです。日本人の学習者は手を挙げて発言することがあまりないので、私の授業中に静かにならないか、ちゃんと答えてくれるのか怖かったです。練習はたくさんしました。イメージがつくまでたくさん練習しました。特に模造紙を貼って外しての部分が大変でした。一回目の授業は1人で45分の授業だったので緊張と不安でいっぱいでした。しかし実際始まると、流れにのったので、あっという間に過ぎました。思っていたよりスムーズにいかず、時間調整が上手くいきませんでした。時計を全然見ずにしていたので、二回目からはちゃんと見るようにすることを心がけました。模造紙のところで無駄な時間が多くあったので友達と協力するべきだと思いました。

二回目の授業は問題集の解答の確認が担当だったので、特に会話を行う必要はありませんでした。緊張もなく、余裕がありました。学習者が答えている時はちゃんと顔を見るように意識していたので、そこが出来ていて良かったです。DVDを見ると、少し表情が怖く見えたので、表情も意識していこうと思いました。模造紙は、無駄な時間を省くため、ペアを組んだ実習生と協力し合い成功しました。

最後の授業は教科書の問題が担当でした。CDを聞かせて答えてもらうところで、想定外のことが起こり、時間をかかってしまいましたが、演技する場面は上手くいったと思います。時間配分は最後まで苦戦してしまいましたが、なんとか調整できたので良かったです。一回目の授業と比べると色々なことに意識を向け、出来ていなかったことができていたので、進歩していると感じました。「私自身が楽しむことが大切」と思っていたので、それが実行できてとてもうれしかったです。

私は今回の実習を通して、日本語教師になりたいという気持ちが強くなりました。学習者から思っていなかった声があがったりたくさん発言したりしてくれるので、とても楽しかったです。ディスカッションの時間ではたくさん質問してくれて、いろいろ知ることができました。わたし自身楽しむことができました。最初は教えることに精一杯でクラス全体を見ることができなかつた私ですが、一人一人顔を見ることができるようになりました。笑顔で元気よく楽しく授業することが大切だと思っています。楽しい授業をこれからもつくっていきたいです。まだまだできていないところもあり、思ったようにいかないことのほうが多くあります。私のつくる授業は私にしかできません。私らしい授業をしていきたいです。